

ディスプレイの眼

お祭り(夏)を終えて・・・

東京ディスプレイ協同組合設立50周年記念イベントである超・お祭りが8月1～2日に行われ無事終了しました。夏祭りにうってつけのお天気にスタッフの熱気も加わり活気溢れる超お祭りとなり、来場者の方々はもとより我々主催側も改めてイベントの楽しさ、そして伝える面白さを実感できた2日間であったかと思えます。

さて改めて考えさせられる事は東京ディスプレイ協同組合が50年という長い軌跡を刻んで来た事です。統計調査によれば50年続く企業の残存率は約7%程度となっています。この数字が物語る半世紀と言う年月の長さの中での存続の難しさ。先見の明を持ち発展し続けてきた者だけに当てられる特別なスポットライトを今まさに浴びているという実感をこの周年祭によって改めて実感する事が出来ました。先人たちの50年の労をねぎらうと共に、その時代々の空間を創造するプロ達が今後もディスプレイ業界に新しい芽(眼)を生やし目覚ましい発展を遂げる事を願っております。

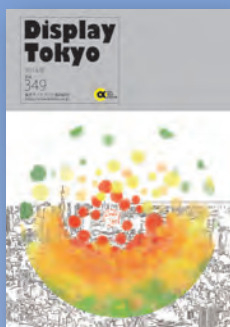
広報委員 島井 智代/株トーガシ

ディスプレイ憲章

ディスプレイは
主題を空間に演出する伝達技術である
われわれは
企業間の相互理解に立ち
業界全体の繁栄をはかると共に
創造に徹し
技術を磨き
ディスプレイを通じて
社会に貢献する

CONTENTS

ディスプレイの眼 お祭り(夏)を終えて・・・	・表2
創立50周年記念事業 「超お祭り」開催	・1
表紙デザイン結果発表	・11
Next HERO わが社の新人紹介	・12
東京デザイン巡り マンホール編	・14
面接採用強化セミナー	・16
上級救命講習	・17
新規加入組合員紹介	・18
編集後記	・19



表紙デザイン
澤田真緒 / 株式会社博展

ディスプレイの持つ「感動を伝播する力」を表しました。ディスプレイは大きな影響力を持っており、多くの人に感動を伝える力、コミュニケーションを促す力があると考えました。その「伝播性」を紅葉の色に例え、緑から赤に移り変わるグラフィックをモノクロの東京の背景に浮かべました。大都市東京において、自然界の感動に置き換わるパワーがあると信じています。

東京ディスプレイ協同組合 創立50周年記念事業

「これがプロのお祭りだ！超お祭り。」開催！



開催概要

時期：2014年8月1日(金)～8月2日(土) 両日11:00～21:00

会場：日比谷公園・にれの木広場

目的：東デ協創立50周年記念事業として組合員の親睦を深めて頂くとともにディスプレイ業界全体の認知向上、文化・技術の伝承を通じてアプローチする。

プログラム

50周年歴史展示	スライドや作品展示などで、東京ディスプレイ協同組合50年を振り返ります。
DIYコーナー	日本の匠の技を紹介し、モノ創りの楽しさをお客様に体験していただくコーナー。カッティングシート貼りや経師貼り、日曜大工などを体験していただけます。
イベントステージ	フリートークの天才とも呼ばれるアナウンサー・小倉淳氏とお笑い界きってのお祭り好き芸人・カラテカ入江氏が盛り上げるほか、創作和太鼓ユニット「彩生(SAIKI)」の美しいパフォーマンスなどエンタメステージが充実。さらに、日比野克彦氏、假屋崎省吾氏、土屋敏男氏を招いてのトークショーなどアカデミックなステージも実施します。
アートコンテスト	ディスプレイ業界を担う美術系学生によるアートコンテスト。「光」をテーマにリアルタイムで制作し最終日に作品展示、表彰式を行います。
全国出張メシ	祭りといえば「屋台」組合員が仕事で出会った全国のグルメを集結。夏祭りの定番である、焼きそばやお好み焼きはもちろんのこと、見たことが無い屋台まで、27店舗を出店します。
アートパフォーマンス	神出鬼没。アートパフォーマーや大道芸人が、会場のいたるところに出現しプロの技を披露します。
くまモンふわふわ	九州新幹線全線開業をきっかけに誕生した「くまモン」。これもディスプレイ業の技のひとつ「デザイン」の力で生まれたものです。会場にはくまモンのエア遊具を設置します。
プラネタリウム	会場に巨大なプラネタリウムが出現。日常を離れ、宇宙の神秘に癒されます。
盆踊り	夏祭りには欠かせない盆踊りの櫓出現で夜の日比谷公園が夏祭り会場に一変。定番曲はもちろんのこと、「超・お祭り。」オリジナル盆踊り「東デ協音頭」も制作。振付はなんと「マツケンサンバ」でお馴染みの真島茂樹氏です。提灯や和太鼓、浴衣姿の踊り手、屋台が会場を盛り上げます。